

▶20日 火曜

詩篇

12 指揮者のために。八弦の立琴に合わせて。
ダビデの賛歌

12:1 主よ。お救いください。聖徒はあとを
絶ち、誠実な人は人の子らの中から消え去り
ました。

12:2 人は互いにうそを話し、へつらいのくち
びると、二心で話します。

12:3 主が、へつらいのくちびると傲慢の舌と
を、ことごとく断ち切ってくださいますよう
に。

12:4 彼らはこう言うのです。「われらはこの
舌で勝つことができる。われらのくちびるは
われらのものだ。だれが、われらの支配者な
のか。」

12:5 主は仰せられる。「悩む人が踏みにじ
られ、貧しい人が嘆くから、今、わたしは立
ち上がる。わたしは彼を、その求める救いに
入れよう。」

12:6 主のみことばは混じりけのないことば。
土の炉で七回もためされて、純化された銀。

12:7 あなたが、主よ、彼らをお守りになりま
す。あなたはこの時代からとこしえまでも彼
らを保たれます。

12:8 人の子の間で、卑しいことがあがめられ
ているときには、悪者が、至る所で横行しま
す。

ダビデの賛歌は、主の真実を歌ったのですが、
それは偽りの横行するこの世で、いよいよ明らかに
なる真実です。このように私たちの賛美は、ただ表
面的に良さそうなことばかりを扱うのではなく、こ
の世の現実の中で表されるものです。この世の矛盾
に悩む人があるなら、なおのこと主のすばらしさを
明らかに覚えましょう。



Bible Reference
聖書の記述

そのようなこの世の「うそ」「へつらい」の中
にあっても、詩人は、主が「立ち上が」ってくだ
さることを神事抜きます。もしもその信頼がな
かつたら、人は正しい生き方を全うできないで
しょう。正しく歩むには主への信頼が必要です。

悪いことを経験した人が何でも知っているかの
ように思ってしまう傾向が、この世にはあります
が、そうではありません。主のみことばこそが、
百戦錬磨のつわものをつくります。なぜなら「7
回ためされて、純化された」ものだからです。主
のみことばに頼る私たちこそが、経験豊富な者に
にまさるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

